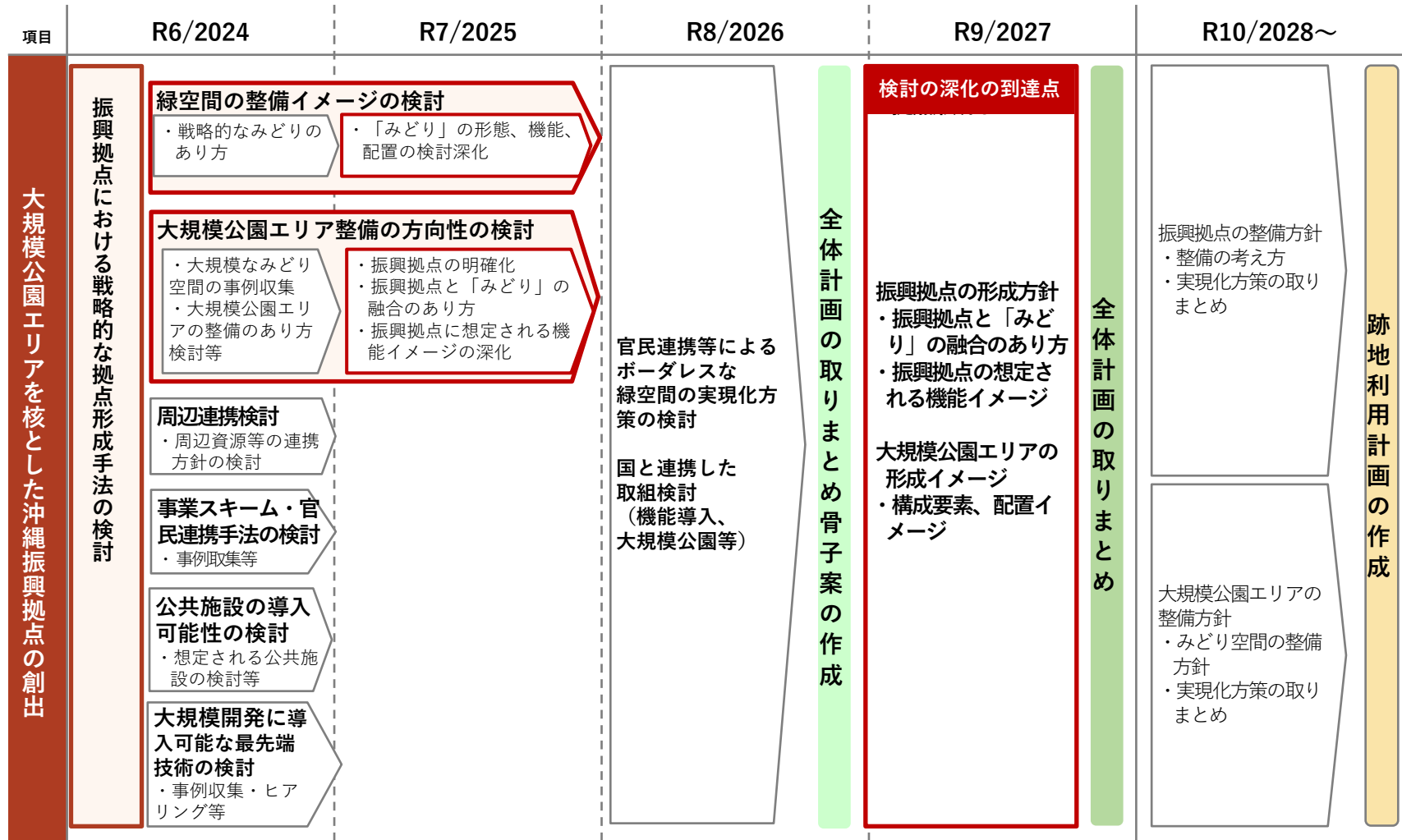


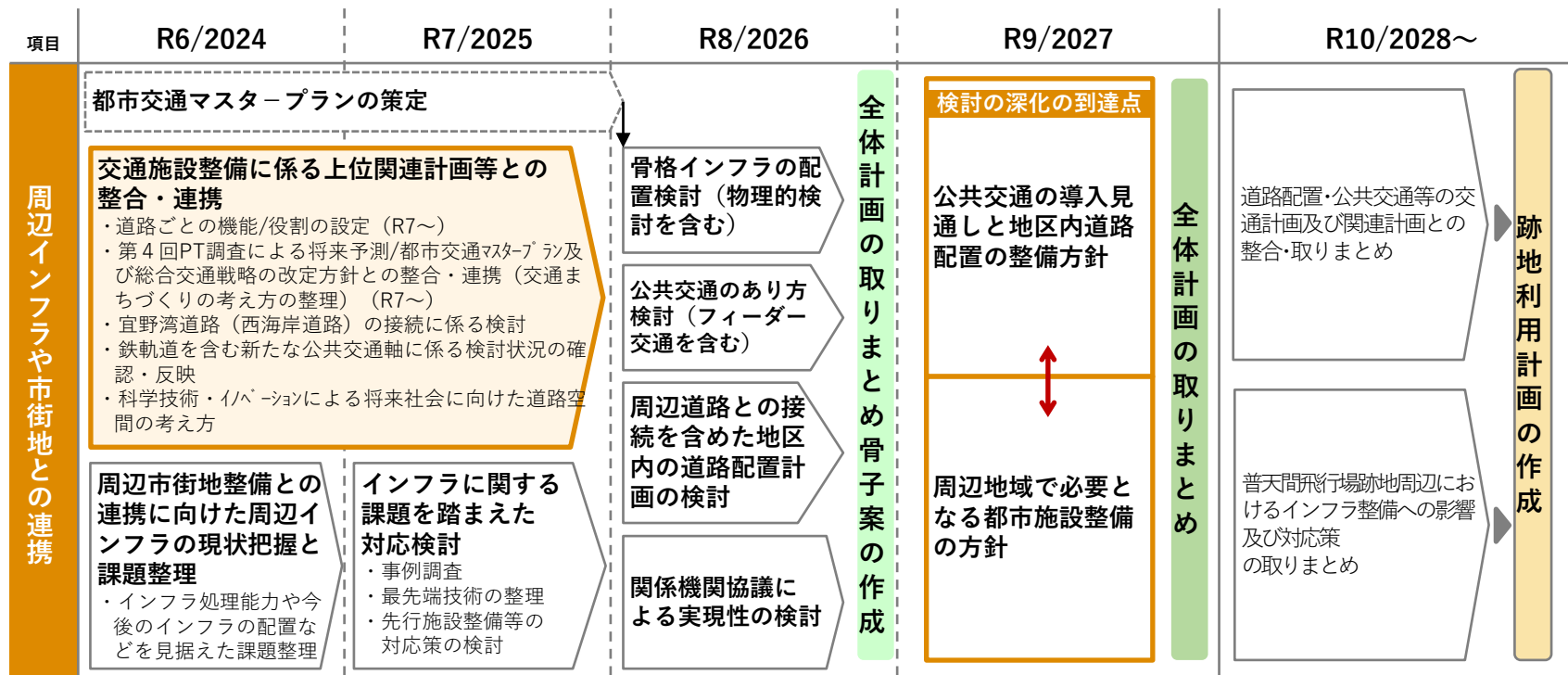
■ 行程計画 (1/7) 必要に応じて柔軟に更新



「大規模公園エリアを核とした沖縄振興拠点の創出」のポイント

- ・新たな沖縄の振興拠点の形成に向けて、**振興拠点の形成方針、大規模公園エリアの形成イメージ**を到達点とする。
- ・戦略的な拠点の形成手法や緑空間の整備イメージ、大規模公園エリアの整備の方向性を重点的に検討する。

## ■ 行程計画 (2/7) 必要に応じて柔軟に更新



### 「周辺インフラや市街地との連携」のポイント

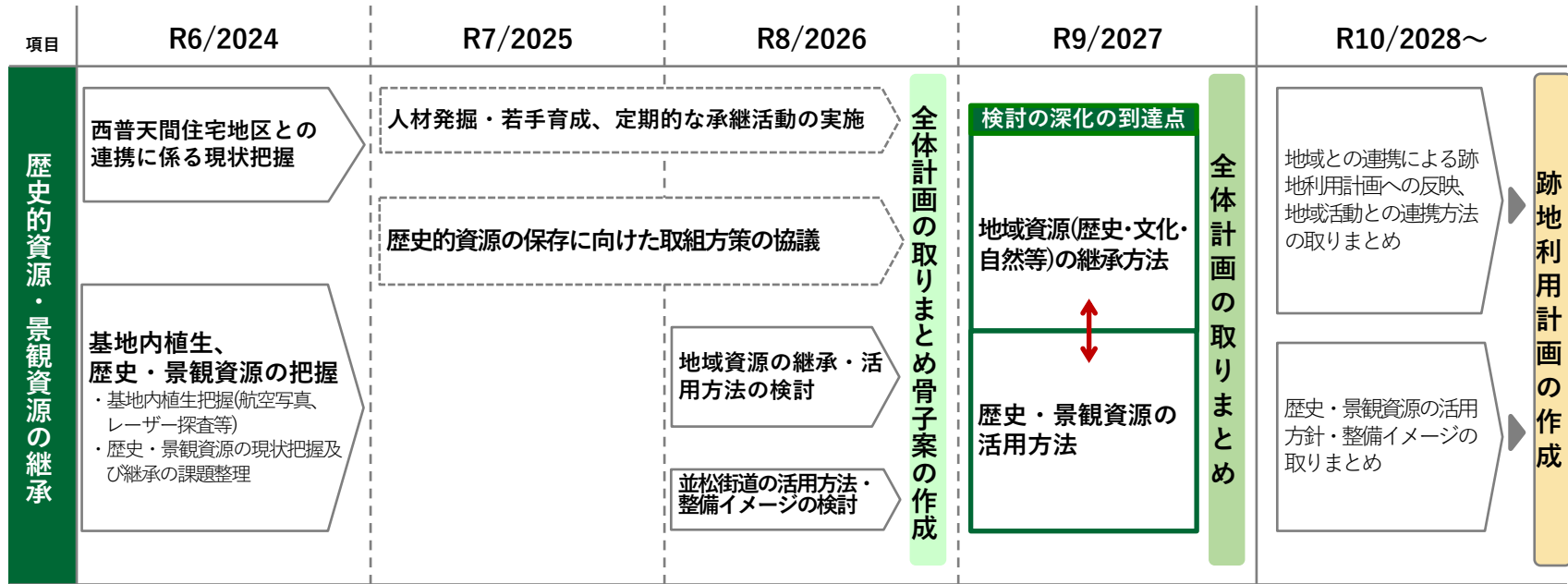
#### I 交通施設整備に係る上位関連計画等との整合・連携

- 道路種別/規格ごとの道路の役割や機能について、階層化の考え方やトラフィック/沿道アクセス機能のバランスについて設定する。
- 都市交通マスタープラン (案) の公表をふまえ、これまでとの変化や今後の交通のあり方について確認し、交通施設整備の考え方を更新する。

#### II インフラに関する課題を踏まえた対応検討

- 供給処理施設に関して、事例調査や最先端技術の整理を行い、先行施設整備をはじめとする対応策を検討する。

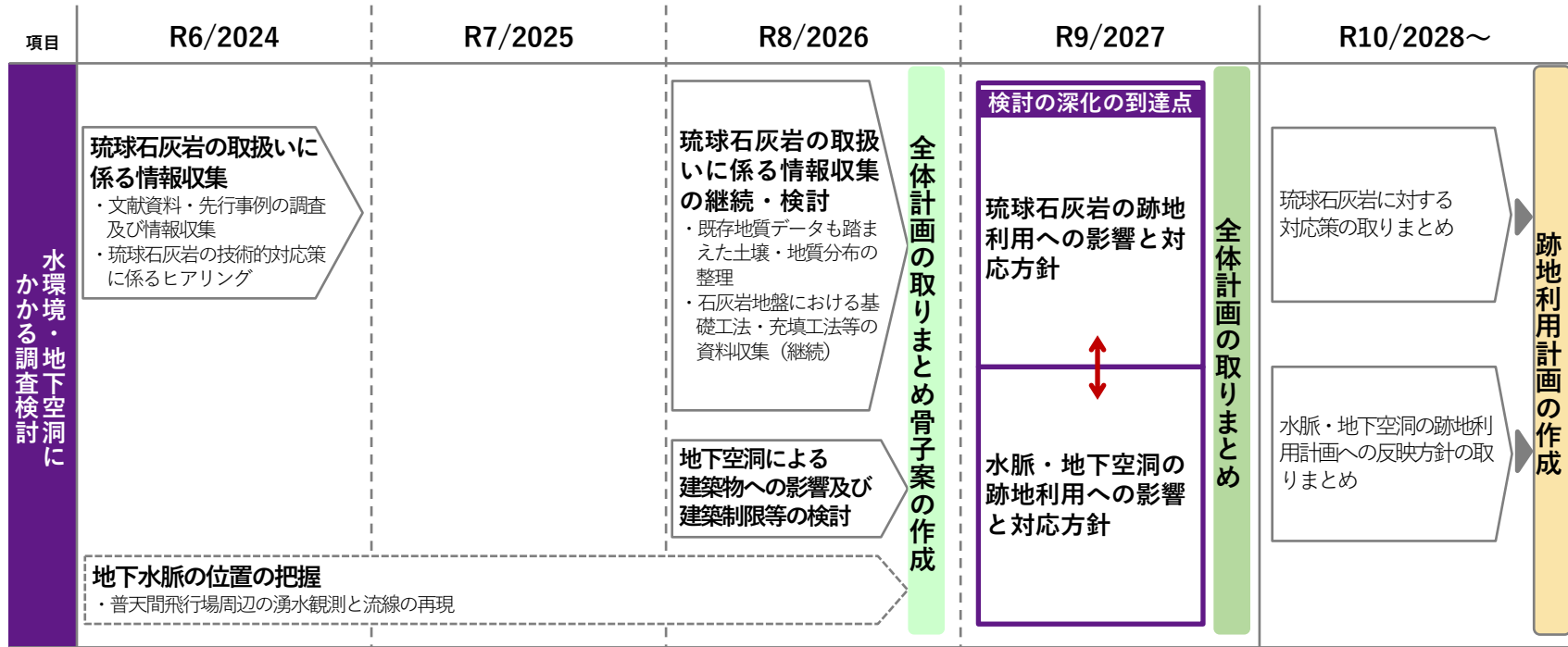
■ 行程計画 (3/7) 必要に応じて柔軟に更新



「歴史的資源・景観資源の継承」のポイント

- ・ 地域資源（歴史・文化・自然等）については、人材発掘・若手育成・承継活動を実施する。
- ・ 西普天間住宅地区における反省点（協議期間・検討体制の不十分等）をふまえ、早期段階から歴史的資源の保存に向けた取組方策に関する協議を行う。
- ・ 基地内植生、歴史・景観資源については、現況把握に努めつつ、並松街道を含む歴史的資源及びその環境を一体とした保存・活用方法や整備イメージを検討し、**地域の歴史的資源等の継承方法及び歴史・景観資源の活用方法**を到達点とする。

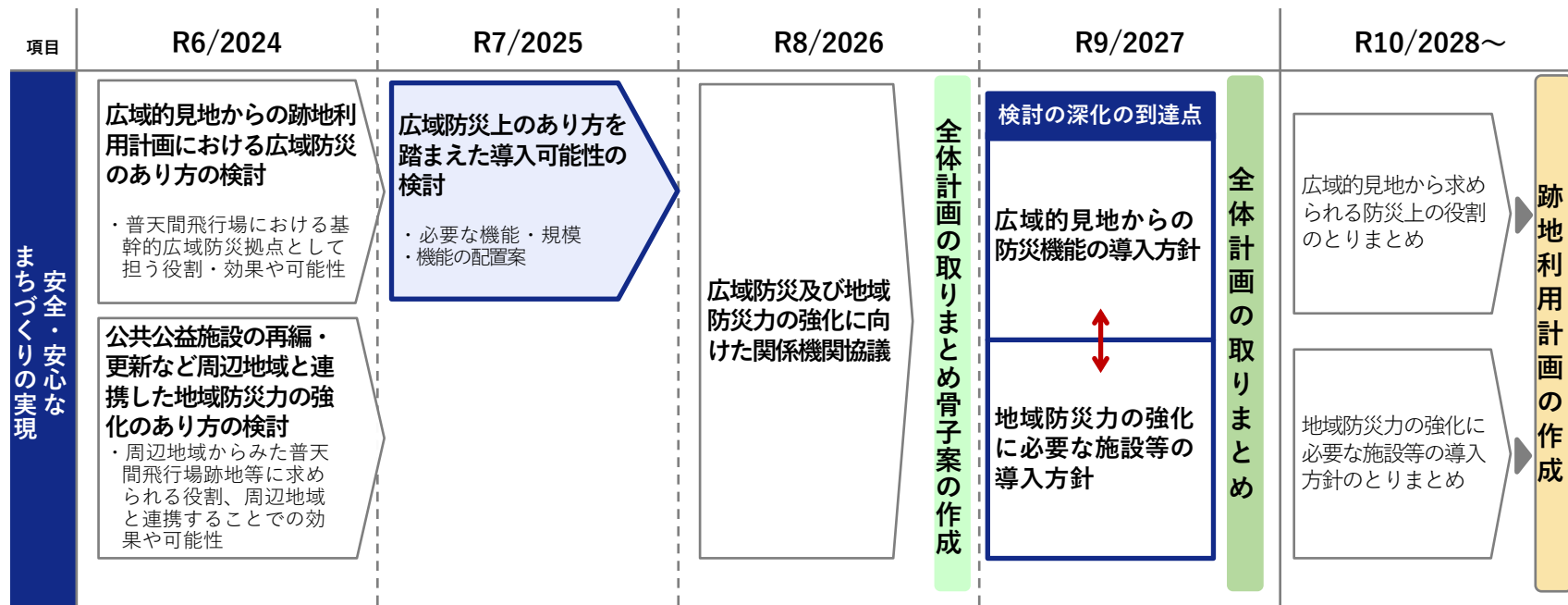
## ■ 行程計画 (4/7) 必要に応じて柔軟に更新



### 「水循環・地下空洞にかか る調査検討」のポイント

- ・ 琉球石灰岩については、県内事例や実績業者等からの技術的対応策を情報収集し、琉球石灰岩の取扱いの検討を行い、**跡地利用計画への影響と対応方針**を到達点とする。
- ・ 水脈・地下空洞については、位置を想定し、**跡地利用計画への影響と対応方針**を到達点とする。

## ■ 行程計画 (5/7) 必要に応じて柔軟に更新



### 「安全・安心なまちづくりの実現」のポイント

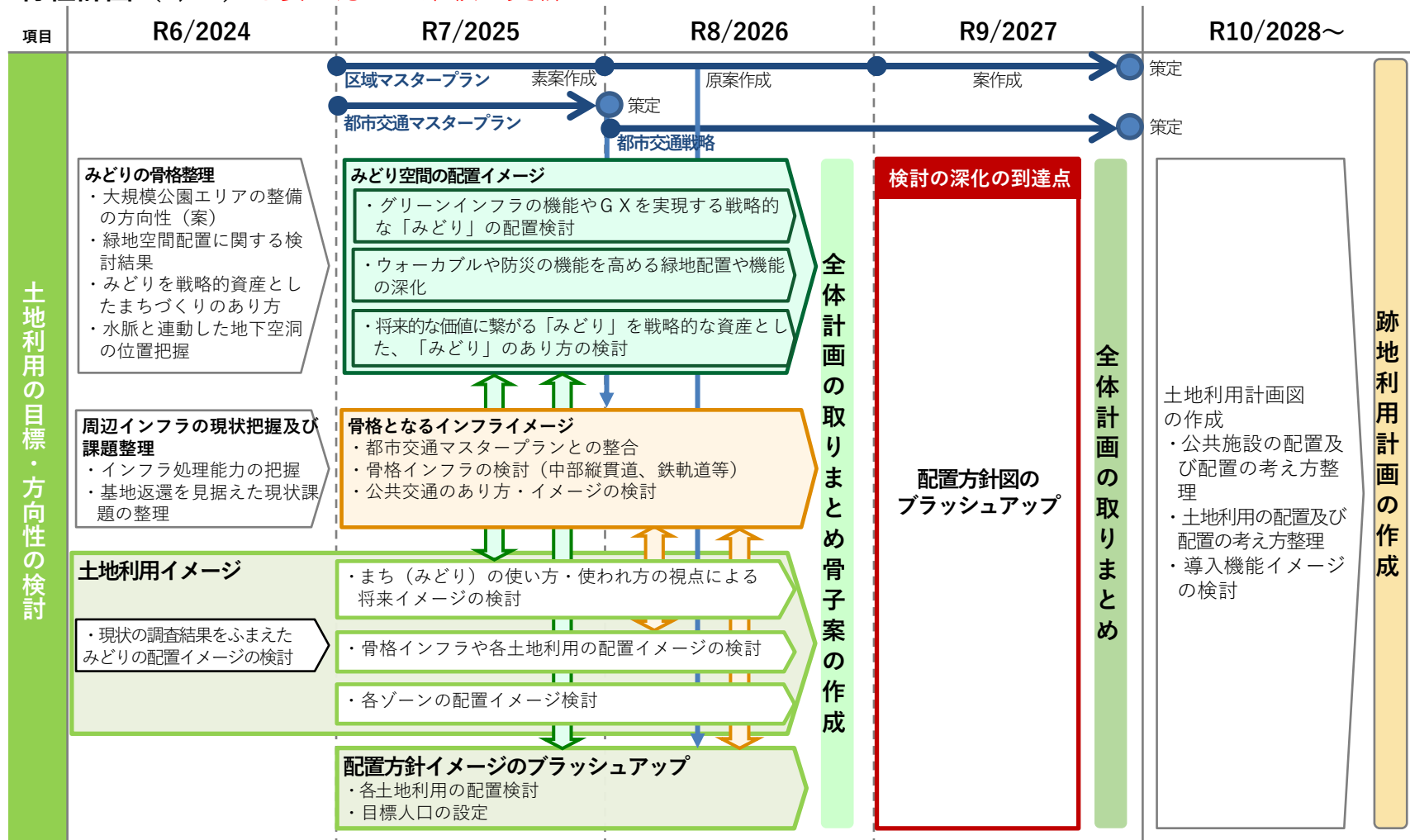
#### I 広域防災上のあり方を踏まえた導入可能性の検討

- ・ 基幹的広域防災拠点として必要な機能・規模を検討する。さらに周辺のインフラ状況も踏まえて、機能の理想的な配置案を検討する。機能の配置案は、平時の利用についても留意しつつ検討する。

#### II 地域防災力を高める施策・対象区域の検討

- ・ 地域防災力を高めるソフト・ハード施策とともに、施策展開する区域を検討する。検討に際しては、地域防災力に関する機運向上を含めた、その実現性を考慮した上で、施策展開の流れを整理する。

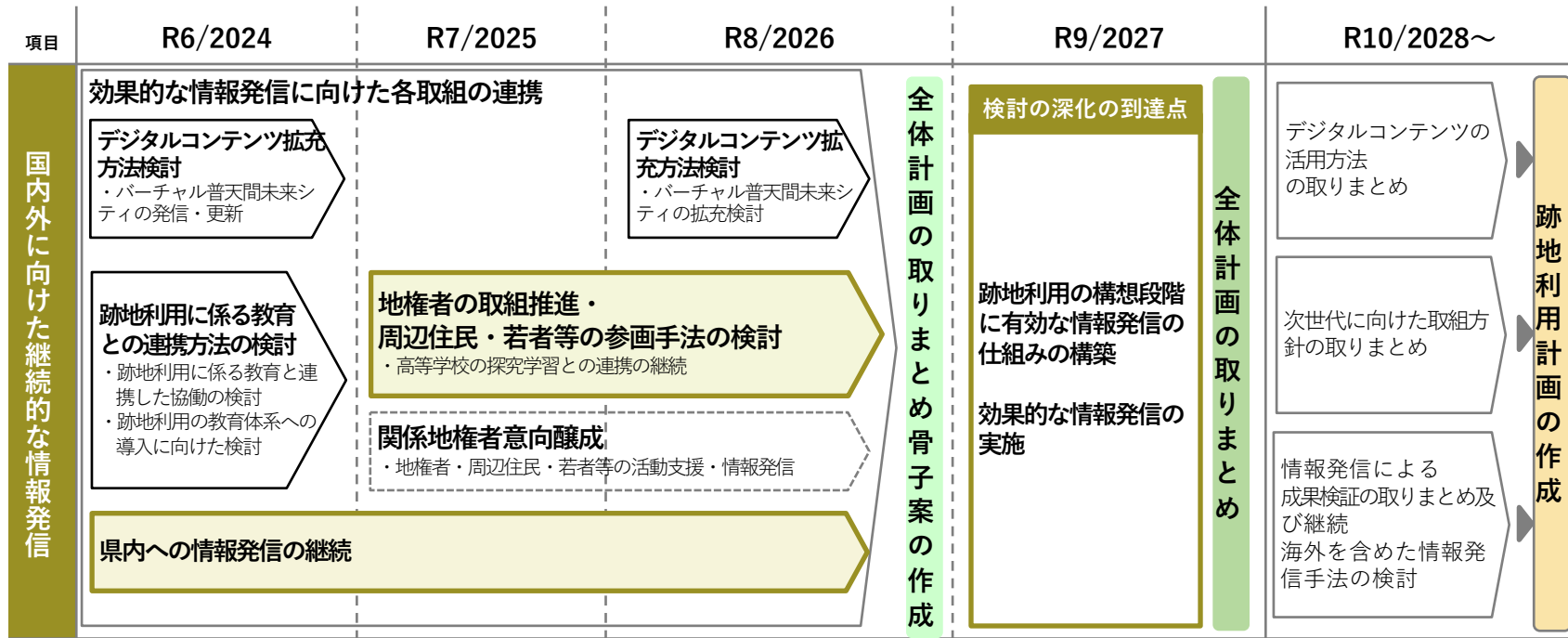
## ■ 行程計画 (6/7) 必要に応じて柔軟に更新



### 「土地利用の目標・方向性の検討」のポイント

- ・全体計画の中間取りまとめ(第2回)で示された「配置方針図」のブラッシュアップを到達点とする。
- ・「みどり空間の配置イメージ」を最優先とし、R7年度は「骨格となるインフライメージ」「各土地利用の配置イメージ」を検討。R8年度は骨格インフラと道路計画、土地利用を配置した「配置方針図(素案)」を作成

■ 行程計画 (7/7) 必要に応じて柔軟に更新



「国内外に向けた継続的な情報発信」のポイント

- ・ デジタルコンテンツは、構想・計画・事業化・実現段階の各段階に有効な活用方法を確認しつつ、**情報発信に有効なツールとするための試験的な活用や拡充方法の検討**を行う。
- ・ 教育との連携は、**教育体系への導入や周辺住民・若者等の参画手法を検討・継続**する。
- ・ 上記を踏まえ、これまでの県内への情報発信の継続とも連携しつつ、**跡地利用の構想段階に有効な情報発信の仕組みの構築と効果的な情報発信の実施**を到達点とする。

# 行程計画更新の視点

▶ 今年度の取組経過をふまえ行程計画を更新

## 行程計画更新の視点

- 都市交通マスタープラン骨子（案）との整合を図る。
- 令和8年度「全体計画の取りまとめ（骨子案）」、令和9年度「全体計画の取りまとめ」策定に向け、各検討の深化を図る。
  - 将来的な価値に繋がる「みどり」の生かし方や各機能の使われ方を想定した機能配置のあり方等の深化
- 配置方針図の更新に向け、構成要素の深化及び見える化を進める。
  - みどりの配置イメージやインフラ（道路等）、各土地利用の配置・規模の見える化を推進する。

## ■今年度の取組概要

目標を定め重点的に取り組む項目	検討の深化の主な内容
大規模公園エリアを核とした沖縄振興拠点の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振興拠点の明確化</li> <li>・振興拠点（国際ビジネス交流拠点、学術研究拠点、広域的な公共公益機能拠点）機能の具体化検討</li> <li>・緑空間の整備イメージの検討</li> <li>・大規模公園エリア整備の方向性の検討</li> <li>・振興拠点機能とみどり機能の融合のあり方検討</li> </ul>
周辺インフラや市街地との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路施設整備に係る上位関連計画との整合・連携</li> </ul>
安全・安心なまちづくりの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域防災上のあり方を踏まえた導入可能性検討</li> </ul>
国内外に向けた継続的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・跡地利用に関わる教育との連携の継続</li> </ul>
土地利用の目標・方向性の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり、骨格インフラ、各土地利用の配置・規模検討</li> </ul>

## ■目標設定（変更なし）

- ①次期沖縄振興計画※に対し、普天間飛行場の跡地利用の観点から提案を行うことを目指す。  
※現在の沖縄振興計画（新・沖縄21世紀ビジョン基本計画）の計画の期間は令和4年度から令和13年度までの10年間。
- ②社会情勢の変化を把握しながら時代や状況に合わせて深化する戦略的・能動的な行程計画の策定を目指す。

## ■目標設定を踏まえた行程概略

・令和9年度に「全体計画の取りまとめ」を策定。

